



平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年8月10日

上場会社名 株式会社フジタコーポレーション
 コード番号 3370 URL <http://www.fujitacorp.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(氏名) 藤田 博章
 (氏名) 清水 清作

TEL 0144-84-8888

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|-------|-----|------|---|------|---|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 30年3月期第1四半期 | 1,159 | 3.3 | 14 | | 22 | | 21 | |
| 29年3月期第1四半期 | 1,200 | 5.0 | 12 | | 22 | | 25 | |

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 30年3月期第1四半期 | 15.49 | |
| 29年3月期第1四半期 | 17.57 | |

(2) 財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|-------|-----|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 30年3月期第1四半期 | 3,529 | 38 | 1.1 | 44.25 |
| 29年3月期 | 3,668 | 62 | 1.7 | 27.38 |

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 38百万円 29年3月期 62百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 29年3月期 | | 0.00 | | 0.00 | 0.00 |
| 30年3月期 | | | | | |
| 30年3月期(予想) | | 0.00 | | 0.00 | 0.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|-----------|-------|-----|------|------|------|---|-------|---|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期(累計) | 2,386 | 0.7 | 44 | 96.8 | 27 | | 5 | | 3.50 |
| 通期 | 4,758 | 0.5 | 94 | | 65 | | 19 | | 11.86 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

| | | | |
|----------|-------------|--------|-------------|
| 30年3月期1Q | 1,446,400 株 | 29年3月期 | 1,446,400 株 |
|----------|-------------|--------|-------------|

期末自己株式数

| | | | |
|----------|------|--------|------|
| 30年3月期1Q | 79 株 | 29年3月期 | 79 株 |
|----------|------|--------|------|

期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|----------|-------------|----------|-------------|
| 30年3月期1Q | 1,446,321 株 | 29年3月期1Q | 1,446,321 株 |
|----------|-------------|----------|-------------|

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|--------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 2 |
| (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 2 |
| 2. 四半期財務諸表及び主な注記 | 3 |
| (1) 四半期貸借対照表 | 3 |
| (2) 四半期損益計算書 | 5 |
| 第1四半期累計期間 | 5 |
| (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 | 6 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 6 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 6 |
| (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 6 |
| (セグメント情報等) | 6 |
| 3. その他 | 7 |
| 継続企業の前提に関する重要事象等 | 7 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間のわが国経済は、政府の経済政策や金融緩和政策により緩やかな回復基調で推移したものの、世界情勢への不安感が継続しており、先行き不透明な状況で推移しております。

当社を取り巻く経営環境につきましても、競合他社の出店や価格競争等により、厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社は平成26年4月に策定した経営改善計画に基づいて不採算店舗及び事業からの撤退を進めてまいりましたが、平成28年3月に株式会社アスラポート・ダイニングと「業務資本提携契約」を締結し、当社のオリジナルブランドであります「かつてん」のフランチャイズビジネス共同構築のモデル店舗の出店、「らーめんおっぺしゃん」のエリアフランチャイザー権の取得、新規業態店舗の出店及び不採算店舗を高収益が見込まれる業態へと転換し、閉店・譲渡から出店の推進へシフトしてまいりました。

当第1四半期会計期間末における当社の展開業態は18業態、稼働店舗数は71店舗(前年同四半期末、18業態78店舗)となりました。店舗数の減少、フランチャイジーブランドの売上低迷等により、当第1四半期累計期間の業績は、売上高1,159百万円(前年同四半期比3.3%減)、営業損失14百万円(前年同四半期、営業損失12百万円)、経常損失22百万円(前年同四半期 経常損失22百万円)、四半期純損失21百万円(前年同四半期、四半期純損失25百万円)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

① 飲食部門

当第1四半期累計期間における飲食部門におきましては、フランチャイジー事業はフランチャイズ本部主導の新商品の投入や販売促進活動を、オリジナルブランド事業は季節限定商品の開発及び販売を継続し、スマートフォンのアプリやクーポンを発行し、特定商品を訴求することで客単価増やリピート顧客の獲得を、また、「ミスタードーナツ」の新型店舗への改装、「らーめんおっぺしゃん」の北海道地区出店し、売上増に努めてまいりました。

飲食部門の当第1四半期会計期間末の店舗数は前年同四半期に比べ4店舗減の62店舗となり、当第1四半期累計期間の売上高は915百万円(前年同四半期比6.4%減)、セグメント損失8百万円(前年同四半期、セグメント損失8百万円)となりました。

② 物販部門

当第1四半期累計期間における物販部門におきましては、飲食部門と同様にフランチャイズ本部主導によるスマートフォンアプリやクーポンを使用した販売促進活動に加えて、来店顧客向けの店内イベントの開催や、季節商品訴求のための売り場づくりを行って、商品提案を定期的を実施してまいりました。

物販部門の当第1四半期会計期間末の店舗は前年同四半期に比べ3店舗減の9店舗となり、当第1四半期累計期間の売上高は244百万円(前年同四半期比10.2%増)、セグメント損失5百万円(前年同四半期、セグメント損失4百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産は696百万円となり、前事業年度末に比べ109百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が95百万円、商品及び製品が48百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は2,833百万円となり、前事業年度末に比べ29百万円減少いたしました。これは主に投資その他の資産が33百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、総資産は、3,529百万円となり、前事業年度末に比べ139百万円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債は831百万円となり、前事業年度末に比べ65百万円減少いたしました。これは主に1年内返済予定の長期借入金が32百万円、買掛金が13百万円、未払法人税等が10百万円減少したこと等によるものであります。固定負債は2,659百万円となり、前事業年度末に比べ49百万円減少いたしました。これは主に長期借入金が42百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債合計は、3,491百万円となり、前事業年度末に比べ115百万円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産合計は38百万円となり、前事業年度末に比べ23百万円減少いたしました。これは主に四半期純損失21百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は1.1%(前事業年度末は1.7%)となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成29年5月12日の「平成29年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当第1四半期会計期間 (平成29年6月30日) |
|---------------|-----------------------|----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 467,486 | 371,714 |
| 売掛金 | 143,247 | 173,639 |
| 商品及び製品 | 70,769 | 22,152 |
| 原材料及び貯蔵品 | 47,415 | 51,300 |
| その他 | 85,008 | 86,570 |
| 貸倒引当金 | △8,250 | △9,200 |
| 流動資産合計 | 805,678 | 696,177 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物(純額) | 1,171,264 | 1,165,233 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 118,583 | 127,987 |
| 土地 | 573,649 | 573,649 |
| その他(純額) | 45,427 | 46,240 |
| 有形固定資産合計 | 1,908,925 | 1,913,110 |
| 無形固定資産 | 147,798 | 147,596 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 87,888 | 74,952 |
| 長期前払費用 | 12,434 | 12,424 |
| 敷金及び保証金 | 641,819 | 621,140 |
| その他 | 82,060 | 81,616 |
| 貸倒引当金 | △17,870 | △17,466 |
| 投資その他の資産合計 | 806,332 | 772,667 |
| 固定資産合計 | 2,863,056 | 2,833,375 |
| 資産合計 | 3,668,735 | 3,529,552 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 146,644 | 133,013 |
| 短期借入金 | 311,392 | 307,667 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 171,216 | 138,680 |
| 未払法人税等 | 16,034 | 5,450 |
| 資産除去債務 | 3,565 | 3,565 |
| その他 | 248,818 | 243,514 |
| 流動負債合計 | 897,671 | 831,890 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 2,549,309 | 2,506,446 |
| 資産除去債務 | 11,207 | 11,224 |
| その他 | 148,142 | 141,488 |
| 固定負債合計 | 2,708,659 | 2,659,158 |
| 負債合計 | 3,606,330 | 3,491,049 |

(単位:千円)

| | 前事業年度 (平成29年3月31日) | 当第1四半期会計期間 (平成29年6月30日) |
|--------------|-----------------------|----------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 555,002 | 555,002 |
| 資本剰余金 | 214,551 | 214,551 |
| 利益剰余金 | △724,988 | △746,891 |
| 自己株式 | △53 | △53 |
| 株主資本合計 | 44,511 | 22,608 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 17,893 | 15,893 |
| 評価・換算差額等合計 | 17,893 | 15,893 |
| 純資産合計 | 62,404 | 38,502 |
| 負債純資産合計 | 3,668,735 | 3,529,552 |

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位:千円)

| | 前第1四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日) | 当第1四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日) |
|--------------|---|---|
| 売上高 | 1,200,069 | 1,159,986 |
| 売上原価 | 434,603 | 439,525 |
| 売上総利益 | 765,466 | 720,461 |
| 販売費及び一般管理費 | 777,989 | 735,114 |
| 営業損失(△) | △12,522 | △14,652 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 104 | 268 |
| 受取配当金 | 775 | 594 |
| 不動産賃貸料 | 44,090 | 43,153 |
| 受取保険金 | 1,845 | 415 |
| その他 | 716 | 774 |
| 営業外収益合計 | 47,532 | 45,206 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 19,478 | 17,091 |
| 不動産賃貸原価 | 35,919 | 35,966 |
| その他 | 2,352 | 232 |
| 営業外費用合計 | 57,749 | 53,290 |
| 経常損失(△) | △22,739 | △22,736 |
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | — | 7,922 |
| 特別利益合計 | — | 7,922 |
| 特別損失 | | |
| 店舗閉鎖損失 | 562 | 4,784 |
| 固定資産除却損 | 159 | 438 |
| 特別損失合計 | 722 | 5,223 |
| 税引前四半期純損失(△) | △23,462 | △20,037 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,949 | 1,864 |
| 法人税等合計 | 1,949 | 1,864 |
| 四半期純損失(△) | △25,411 | △21,902 |

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 飲食 | 物販 | 四半期損益計算書 計上額 |
|-------------------|---------|---------|-----------------|
| 売上高 | | | |
| 外部顧客への売上高 | 978,075 | 221,994 | 1,200,069 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | — | — | — |
| 計 | 978,075 | 221,994 | 1,200,069 |
| セグメント損失(△) | △8,139 | △4,383 | △12,522 |

(注)セグメント損失(△)は、損益計算書の営業損失と一致しております。

II 当第1四半期累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 飲食 | 物販 | 四半期損益計算書 計上額 |
|-------------------|---------|---------|-----------------|
| 売上高 | | | |
| 外部顧客への売上高 | 915,359 | 244,627 | 1,159,986 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | — | — | — |
| 計 | 915,359 | 244,627 | 1,159,986 |
| セグメント損失(△) | △8,810 | △5,842 | △14,652 |

(注)セグメント損失(△)は、損益計算書の営業損失と一致しております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、平成26年4月に策定した経営改善計画に基づき、不採算店舗及び事業からの撤退を進めた結果、前年同四半期に比べ7店舗減少したことに伴い、当第1四半期累計期間の売上高は前年同四半期に比べ3.3%減少しました。

不採算店舗及び事業からの撤退による店舗数の減少に伴う事業規模の縮小傾向に歯止めをかけ、早期に経営基盤の安定を図るため、販売管理費の徹底した削減を継続するとともに、フランチャイザー事業展開の準備や新規業態の出店等を行って収益構造改革に着手いたしました。

しかし、当第1四半期累計期間に営業損失14百万円、四半期純損失21百万円を計上し、依然として厳しい経営環境で推移しております。また、当社の有利子負債は2,973百万円と総資産の84.2%を占め、手元流動性に比して高水準にあるため、取引金融機関から返済条件の緩和を継続して受けている状況にあります。こうした状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりますが、以下のとおり当該重要事象等を解決するための対応策を実施しているため、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められません。

事業面におきましては、期間限定商品やサービスの訴求、スマートフォンのアプリやクーポンを使用した効率的な販売促進活動による収益確保と販売管理費及び設備投資の抑制等のコスト削減を両立し、収益力の強化に努めてまいります。また、平成28年3月に株式会社アスラポート・ダイニングと「業務資本提携契約」を締結し、飲食事業、卸売事業、製造・販売事業を組み合わせた販売コストの削減及び新規事業展開を加速し、より安定的に営業利益及び営業キャッシュ・フローを獲得し得る体制を構築してまいります。

また、資金面におきましては、当社の主力取引銀行の支援のもと、取引金融機関に対し、長期借入金元本の返済条件の緩和継続を要請し、同意を頂いております。経営改善計画の確実な遂行により、その後も継続的な支援を受けられる見込みであります。

当該金融支援と経営改善計画の着実な実行により、財務体質の改善を図るとともに、経営基盤を強化し、より安定的な営業利益及び営業キャッシュ・フロー並びに当期利益の獲得を予定しております。